

首長のやる気で平和の発信が変わる～東京都世田谷区では

東京都世田谷区では、1985年8月15日に『平和都市宣言』を行いました。

われわれの住む地球上から核兵器をなくし、戦争のない平和な社会を実現していくことは、すべての人びとの願いである。

しかし、いまなお世界の各地では、武力による紛争が絶えず、一方核軍備の拡張競争は一段と激化し、世界の平和に深刻な脅威をもたらしている。

われわれは、人類永遠の平和を樹立するために、核兵器がこの地球上からなくなる日を心から願うとともに、我が国が今後とも核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませずの「非核三原則」を堅持していくことを強く望むものである。

世田谷区は、平和を愛する区民の願いにこたえ、核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、ここに「平和都市」であることを宣言する。

昭和60年8月15日

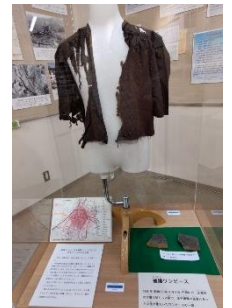
世田谷区

この宣言を具体化するものとして、世田谷公園の中に「平和資料館」が作られています。

平和資料館は大きな建物でもないのですが、過去から未来まで順をおって展示がなされていました。説明も展示物もコンパクトにまとめられていて、小学生でも考えることができるように展示にはすべてフリガナがつけられていました。また、



昨年度から今年度にかけては、学徒出陣80年ということで、区内の大学と協力して、特別展が開かれました。区のホームページには企画展などの情報発信がされています。興味を持たれた方はぜひホームページもご覧ください。公園内には、下記の写真にある『平和の祈り』の像、『平和の灯』、被爆二世のアオギリ



や柿なども植えられています。入館料は無料です。

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/002/002/003/001/d00141171.html>



なお、この世田谷公園の道を隔てた向かい側には、自衛隊病院があります。とてもギャップがありました。

京都市でも平和都市宣言をしていますが、具体化としての市民への働きかけはほとんどないのではないかと感じています。



昭和58年(1983年)3月23日

京都市会

(宣言文)

真の恒久平和は、人類共通の念願である。しかるに、核・軍備の拡張は依然として強まり、世界平和、人類の生存に深刻な脅威をもたらしている。

我々は世界最初の核被爆国民として、核の恐ろしき、被爆者の今なお続く苦しみをかみしめ、この地球上に再び広島、長崎のあの惨禍を繰り返させてはならないと、全世界の人々に訴えるものである。

ここに我々は、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を日常の市民生活に生かし、子々孫々継承するために、非核、平和都市たることを厳粛に宣言するものである。

1、京都市は、非核三原則(作らず、持たず、持ち込ませず)の完全な遵守を求める。

1、京都市は、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を求める。

1、京都市は、核兵器及び核兵器積載の疑いのあるものの京都市域への通過、運搬、飛来、貯蔵、滞留を拒否する。

1、京都市は、核兵器を生産、配備させない。

1、京都市は、戦争に協力する事務は行わない。

京都市の非核・平和都市宣言

『平和』な京都をつくる仲間のつどい」を開催しました

前号でご案内の通り、1月13日に『平和』な京都をつくる仲間のつどい」が開催され、近府県の平和友好団体の仲間の皆さんを含め、50名ほどのかたがたにおあつまりいただきました。

京都市長選挙は2月4日が投票日です。京都平和委員会では昨年の常任理事会で福山和人市長を誕生させるため取り組もうと推薦する決議をあげました。このつどいは、その取り組みの一つとして京都平和委員会も参加する京都の平和友好団体と宗教者の連絡会の主催で開催しました。

市長選挙には5名の方が立候補を表明していますが、京都でも「政治とカネ」をめぐり、「カネの力ではなく市民の声を実現するのは福山さんだけ」という声が広がっています。集会では、「つなぐ京都2024」の中野さんから、市長選を巡る動きを報告いただきました。その後、『私にも一言』と、参加者から発言をいただきました。被爆者懇談会の三山さんから、胎内被爆者としての思いから、被爆者に寄り添う市長をとの発言、日朝協会京都府連の福ちゃんこと福谷さんからは、市の職員時代のゆがんだ同和行政についての発言がありました。

福山さんが拍手に迎えられて登場。福山さんは、沖縄の県民投票やデニー知事の姿勢と、地方自治法の精神に触れ、地方自治体は住民の福祉の向上に力を注ぐべきであり、国の戦争政策には従わないのは当然と辺野古の埋め立てについての政府の代執行を批判しました。さらに京都は原爆が投下されていたかもしれない特別な場所であるとして、平和の問題は市長でも取り組めることがたくさんある、そういう活動を市長としてさせてほしいとの力強い訴えをされました。

「蜷川さんの精神を引き継いでほしい」と蜷川さんのことばが入ったのれん、体調不良で参加できなくなった方から届いた立派な大根、花籠のプレゼントが福山さんに手渡され、福山さんは「大根大好きなんです」と会場を後にされました。

片岡明京都平和委員会理事長から京都市長選挙の論点として、京都市の自衛隊への名簿提供の状況を報告。この問題に早くから一緒に取り組んできた福山さんだからこそ、市長になったら名簿提供は中止することは間違いなく、全国への影響は大きいと指摘。また、土地利用規制法を巡っては、京丹后市のように防衛省からの「情報提供の場」を開催させるなど、首長としてできることがあるということ紹介し、京都市は桂駐屯地が「注視区域」として候補となっているが、他の候補者はこれらの問題には触れていない。「戦争協力事務をしない」という非核宣言をしている京都市が、住民の安全・安心を確保することが大切ということを市長選挙の論点として私たちが取り組んでいくことが重要ではないかとの報告がありました。

近府県の平和委員会をはじめとする平和友好団体の皆さんを代表する形で、兵庫県原水協の梶本さんからの力強い連帯の挨拶、日本共産党の堀川あき子さんからはガザの問題に継続して取り組んでいるがまず何より福山市長の誕生させることという決意表明、滋賀宗平協の木田さんからは宗教者として戦争に加担してきた過去と平和のためのこれからの取り組みについて話がありました。



最後に、京都宗平協の鈴木君代さんが平和の思いを自作の歌に乗せて会場中に届けました。

この集会では、『私の一言』メッセージということで、平和への思いや福山さんへの期待を参加者にかいていただき、「つなぐ京都」なのでそのメッセージをつないで掲出しました。会場で集めた選挙募金とともにメッセージもその日のうちに「つなぐ京都」の事務所にお届けしました。

集会後は、応援に来られた皆さんや「つなぐ京都」の会の皆さんとともに、30人ほどで阪急西院駅前での宣伝行動を行い、福山市長誕生に向けて決意を固めあう会となりました。



【編集後記】

2月号ですが少し早めにお届けします。2月4日を京都に福が来る日にしたいとの思いから。世田谷は私の出身地です。平和資料館には初めて行きました(私が住んでいたころにはありませんでした)。世田谷区の区長は野党共闘で誕生した区長です。平和への思いをどうやって発信するか、住民要求をどんなふうにくみ取ろうとしているか、資料館一つを見ても感じました。平和の問題や憲法の問題は国がやることといわれる方もありますが決してそうではない、首長でもできることはたくさんあると思います。

皆さんのご意見、ご感想、そして地域の情報をお待ちしています。<太田啓子 miyakowasure@hera.eonet.ne.jp>